

第 10-14 回 (2017/6/ 13-7/11)	総合演習 北村由美准教授 (附属図書館)
---------------------------------------	--------------------------------

■ 第 10 回 : 6 月 13 日(火)

場 所 : 学術情報メディアセンター南館 303

参加者 : 受講者 16 名 演習補助者 5 名

配布資料 : 講義スライド / グループワーク課題 RW 登録 / キーワードマップ用紙
 / 著作権クイズ / レビュー論文の構造ワークシート
 / 課題のプリント / サポートデスクレポート執筆講座チラシ

➤ 宿題

- 公益社団法人著作権情報センターHP「著作権って何? (はじめての著作権講座)」の一部分を読んで理解してくる。

URL: <http://www.cric.or.jp/qa/hajime/>

- レビュー論文を配布し、構造を意識しながら内容を読んでくる。

➤ 講義 (60 分) 「総合演習」

・グループ発表に向けて ・著作権・引用・参考文献リストについて

- 先生の自己紹介・これまでの内容の振り返り

- グループ発表の内容

発表内容 : 「21 世紀の重要な課題」からグループで選んだテーマで先行研究レビューを行う

発表時間 : 20 分、全員参加

目標 : レビュー論文を目指す

論文には研究論文、レビュー論文の 2 種類がある。

レビュー論文とはこれまでに言われていることを振り返り、

自分たちの視点に基づいて整理した上で、考察を加えたもの。

- 一般的なレビュー論文の構造
 1. イントロダクション (研究の背景、問い)
 2. 研究方法 (先行研究を収集する範囲や方法)
 3. 先行研究整理 (独自の視点によるレビュー)
 4. 考察 (先行研究で言及されていること/いないこと)
 5. 参考文献リスト

- グループ発表のポイント

グループ発表のポイントは以下の通り

1. 関連資料を十分網羅し、読み込んでいるか。
2. 関連資料のポイントを的確にとらえているか
3. 各グループならではの着眼点で先行研究を考察しているか
4. 分かりやすい資料の作成 (フォントサイズや目次の挿入等)
5. 魅力的なプレゼン (導入、アイコンタクト、声の大きさ等)
6. 引用と文献リストの書式をきちっとおさえる

☆グループワーク 1

宿題で読んできたレビュー論文について、情報共有を行い、ワークシートに記入。

ワークシートの内容は以下のとおり。

1. 問い・著者の問題意識
2. 研究方法
3. 先行研究整理

4. 著者の考察・まとめ

● 著作権とは

今年度の入学式式辞の例

☆著作権クイズ

- ・宿題で出題したページに関連するクイズを 5 題出題
- クリエイティブ・コモンズの考え方の紹介

● 引用、参照のルールとポイント

「引用」「参照」の意味

- ・自分の意見と他人の意見を区別するため、自分の意見や発表の根拠を明示する。
- ・その論文を読んだ次の人に、研究内容を渡すために必要となる。

ルールとポイント

- ・指定されたフォーマットで参考文献リストを作成する。
- ・自分の文章と引用部分の主従関係を明らかにする。
- ・本文中で参照した部分については、文献リストや註で明示する。
- ・図・表にも出典と加工方法を明記する。

● テーマ設定のためのブレインストーミングに向けて

テーマ設定にはキーワードを選択していく必要がある。自分の興味あるキーワードを構造的に考えることで、適正な概念レベルの文献にたどり着ける。下位概念になるほど問題が細分化され文献は少なくなり、上位概念になるほど問題が大きくなり関連文献は多くなる。テーマを絞ったり、広げたりする際に、下記のような各ツールを活用できる。

- ・言語化・構造化に役立つツール

NDLサーチ / JST シソーラス / JST シソーラスマップ / Webcat Plus / 新書マップ

➤ 演習 (30分)

- TA より「初心者向けレポート執筆講座」及びサポートデスクの紹介 (1分)
- グループ発表・本日の課題について説明 (7分)
- キーワードマップの作成 (22分)

➤ 課題 (宿題)

調査テーマに関する文献調査などの課題を課した。

■ 第 11 回：6 月 20 日(火)

場 所： 学術情報メディアセンター南館 303

参加者： 受講者 15 名 演習補助者 6 名

配布資料： 講義スライド / 課題

➤ 講義 (30分)

● RefWorks の使い方

- ・ 文献管理ツールとは何か、ログインの仕方について
- ・ 各種論文データベース (KULINE / CiNii Articles) から RefWorks に論文情報を取り込む
- ・ フォルダ整理とレコード編集、コメント機能について
- ・ RefWorks から出力、参考文献リストの作成
- ・ RefShare を使って集積した文献リストを共有する

- RefWorks のアカウント登録については、6 月 20 日 (火) までの宿題とした。登録ができていない受講者にはその場で登録してもらった。

- 学習支援サービス PandA（情報環境機構提供）を利用した課題提出、および作成資料の共有方法の解説。

➤ 演習（60分）

- グループワーク
 - ・ 教員と補助者、学習サポートデスクのスタッフが適宜サポートを行った。
- グループごとに発表計画を説明
 - ・ グループごとに発表計画を1分程度で説明した。
 - ・ ただし4班については計画が時間内にまとまらず、次週はじめに発表することとなった。
 - ・ 北村准教授から足りない視点や方向性についてフィードバックを得た。

➤ 課題（宿題）

RefWorksでの文献管理、文献共有などについての課題を課した。

■ 第12回：6月27日(火)

場 所：附属図書館1階ラーニング・コモンズ

参加者：受講者 16名 演習補助者 6名

配布資料：講義スライド（発表資料・最終レポートについて）

➤ 4班の発表（5分）

- ・ 計画を1分程度で説明し、北村准教授から足りない視点や方向性についてフィードバックを得た。

➤ 講義（10分）

- 発表資料・最終レポート・アンケートについて
 - 発表資料の注意点について、昨年度のスライド例をもとに簡単に説明
 - ・ 提出方法や締切などの説明
 - ・ 発表日を決めるため、くじ引きを行った。

➤ 演習（75分）

- グループワーク
 - ・ 教員と補助者が適宜サポートを行った。

■ 総合演習発表概要

- ・ 「21世紀の重要な課題」に関してグループでテーマを設定し、先行研究について調査発表を行う。
- ・ 各班発表時間20分＋質疑応答5分で発表を行う。
- ・ 発表者は「自己振り返りシート」に記入し提出する。
- ・ 他の履修者は、各班の発表について「発表評価シート」に記入し提出する。
- ・ 「発表評価シート」は各回で回収し、第14回の最後に得点で1位と2位の班を発表する。

■ 第13回：7月4日(火)

場 所：附属図書館3階共同研究室5

参加者：受講者 16名 演習補助者 5名

配布資料：講義スライド（5、1、4班）、発表評価シート、自己振り返りシート

- 5班発表「放射線が人体に与える影響について」

- 1 班発表「旧来のうつ病と「現代型うつ病」 差異と原因・新対策」
- 4 班発表「イスラム国 (IS) が支持を集めるのはなぜか」
 - ・ 北村准教授より全体的なフィードバックとして、以下の 2 点が示された。
 - ・ はじめに聞く人の注意をひく「つかみ」があるとなおよい。
 - ・ 時間配分を掴むためにも、実際に練習をすることは重要である。

■ 第 14 回：7 月 11 日(火)

場 所：附属図書館 3 階共同研究室 5

参加者：受講者 13 名 演習補助者 6 名

配布資料：発表スライド (2、3 班)、発表評価シート、自己振り返りシート

- 2 班発表「人工知能が 職業に与える影響」
- 3 班発表「中国における人口問題のジレンマ」

16:10-16:15

- ・すべての「発表評価シート」を集計した結果、回により得点のつけ方に差が見られたため、各回の得点 1 位 (1 班と 3 班) を発表した。
- ・記入された「発表評価シート」を、各班へ配布した。
- ・事務連絡 (最終レポート、アンケート、半年後のフォローアップアンケート等)

(文責：内田 栞)

□2017 年度の主な変更点

- 授業会場について
 - ・ 第 10-11 回は学術情報メディアセンター南館 303、第 12 回は附属図書館 1 階ラーニング・コモンズ、第 13-14 回は附属図書館 3 階共同研究室 5 で行った。
- 発表について
 - ・ 昨年度までは総合演習で行っていた発表テーマの設定を、今年度からは IN/DB の授業時に行った。
 - ・ 今年度は全体で 5 チームとなり、第 13 回に 3 チーム、第 14 回に 2 チームが発表を行った。時間に余裕ができたため、昨年度は 15 分であった発表時間を 20 分とした。
 - ・ 昨年度は誰の意見なのかが明確でない発表が散見されたので、今年度は第 12 回授業時にスライド例を提示して、自分の意見と他者の意見を明確に区別するように、改めて注意した。
- 課題について
 - ・ 反転授業の要素として、第 10 回授業の前に著作権に関するウェブページを閲覧してこること、レビュー論文の構造を考えてこることを事前課題とした。
- 第 10 回の授業構成について
 - ・ 事前課題に取り組んできたかどうかの確認のため、著作権クイズを行った。
 - ・ 発表内容は先行研究のレビューが主ということを強調するため、昨年度からレビュー論文を配布している。今年度は配布したレビュー論文の構造について、授業中にグループで話し合ってもらった。

□ 感想・反省等

- 授業会場について
 - ・ 第 12 回のグループワーク時に附属図書館のラーニング・コモンズを使用した。パソコンが必要な班のために、ラーニング・コモンズのノートパソコンを用意しておいたが、各班パソコンを持参していたので、貸し出しの必要はなかった。
 - ・ 次年度以降も、受講者がパソコンを持参することを前提に授業会場を設定しても問題ないように思われる。
- 発表について
 - ・ 第 12 回に発表スライド例を提示したことで、先行研究のレビューを主眼にした発表を行うこと、また他者の意見と自分の意見を区別する必要があることが伝わったと思われる。昨年度までの発表よりも、こちらの意図に沿った内容の発表が多かった。
 - ・ 発表のテーマを IN/DB 授業時に決めていたことで、授業に一貫性ができ、受講生も早い段階から発表を意識することができたようである。可能なら、来年度以降もこの形式を踏襲できるとよい。
 - ・ 最初に決めたテーマを深めるのに苦労しているチームがあった。議論が煮詰まった班のために、「現代用語の基礎知識」も参照できるツールとして、数冊用意しておくともよいかもしれない。
- 課題について
 - ・ 事前にウェブページを閲覧の上、著作権に関するクイズを行ったが、クイズも事前課題として取り組んできてもらってもよいかもしれない。
- 第 10 回の授業構成について
 - ・ 著作権クイズ、レビュー論文の構造分析を盛り込んだために、全体的に分量が多く、各トピックでぶつ切りの感じがあった。
 - ・ 著作権クイズは各自事前に行ってきたもらい、解題から始めてもよい。
 - ・ 授業構成として、著作権クイズの解題→引用・参照のルール→発表についての説明とい

- う流れにしてはどうかという案が出された。
- ・ 今年度初めて、レビュー論文の構造をグループで分析してもらうことにしたが、つまづいている班もあった。ワークシートの文言の見直しや、分析する論文をもう少し簡単にするなど改善してもよいかもしれない。
- 第 11 回の 1 分間予告について
- ・ 1 分間予告の説明のために使用したスライド例が、先行研究レビューという観点と異なるものであった。来年度以降も提示する場合は修正が必要である。
 - ・ スライド例を提示すると、全く同じようなスライドを作る班が多かった。もう少し自由に作れるよう、提示はなしでもよいかもしれない。
 - ・ 1 分間予告のスライドをスクリーンに表示させるために、USB でデータを移動する必要があり、時間がかかる。来年度以降は、PandA のリソースにアップしてもらえば、よいかもしれない。
- 第 12 回の授業について
- ・ スライド例は提示するが、配布はしないという今年度の方式がちょうどよいと思われる。
 - ・ 最終レポートとアンケートについての説明を行う際に、発表に関する注意（発表時間、全員が話す必要がある、リハーサルしておく等）を、再度説明しておくとうい。
- その他
- ・ 発表者用ツールを使用するつもりで、読み原稿を手元に用意していない班があった。急遽 TA のノートパソコンを借用して発表を行ったが、来年度以降は発表者用ツールを使用できるパソコンを用意するか、読み原稿を用意しておくよう、事前に伝えておく方がよい。
 - ・ 情報環境機構の OSL リプレースに伴い、来年度からプリントアウトが有料になる。第 11 回課題で論文と新聞記事のプリントアウトを課しているが、来年度以降の課題については PandA のリソースにアップしてもらうなど、他の手段への変更も含めて検討する必要がある。
- アンケートについて
- ・ アンケートを最終レポートとあわせて必須提出としたところ、発表者 15 名中 14 名から回答を得た。
 - ・ 平均値はそれぞれ理解度 5.14、有用度 5.35、難易度 4.85 であった。
 - ・ 有用だと思うツールについては、「CiNiiArticles」「RefWorks」「新聞データベース」が多く、特に「CiNiiArticles」については、全員が有用であったと回答した。
 - ・ グループワークについて、「互いの理解・協力がうまく機能すれば、個々人の能力の総和よりも強大な能力を発揮できる。」といった肯定的な意見がある一方、「テーマを一つに絞り込み決定することと情報交換が特に難しかった。」といったグループワークならではの難しさを指摘した意見もあった。
 - ・ 授業時間外にグループで話し合った時間について、「2~4 時間」が最も多かった。発表準備期間が短いという意見も見られた。
 - ・ 用いた方法は「LINE」が最も多く、次いで「実際に会った」が多かった。
 - ・ 今年度より課した予習については、1 名無回答があったものの、他 13 名は「予習した」と回答した。
 - ・ 授業を知ったきっかけについて、「シラバス」が最も多く、次いで「全学機構ガイダンス」が多かった。その他として、京都大学内で配布されている無料情報誌「Chot★Better」、「総合人間学部の教職履修カルテ」を挙げている受講生が各 1 名あった。
 - ・ 受講理由について、「今後の研究・学習に役立ちそうだから」「授業内容に興味があったから」「図書館の利用法を知りたかったから」が多かった。
 - ・ 受講理由について、「情報課の教職の単位になるから」というものがあり、来年度以降の広報に際して、留意しておくとうい点かと思われる。

- 授業で特に良かった点について、「資料調査の入り口」を挙げた受講生が最も多かった。
- 授業の Twitter について、14 名中 11 名が「全く見ていない」と回答したが、1 名は「たまに見ていた」、2 名は「よく見ていた」と回答した。アンケート結果を受けて、来年度の Twitter の使用について、検討する必要がある。
- 授業全体について、4 名からコメント・提案を得た。説明をまとめて行った上で、演習を開始するというスタイルでは、最初にやるべきことや必要なことが抜け落ちる可能性があるという点が複数名から指摘されていた。説明をコンパクトにする、また複数回にわたって補足説明する、など来年度以降改善すべき点として検討する必要がある。

(文責：小松原 記子)